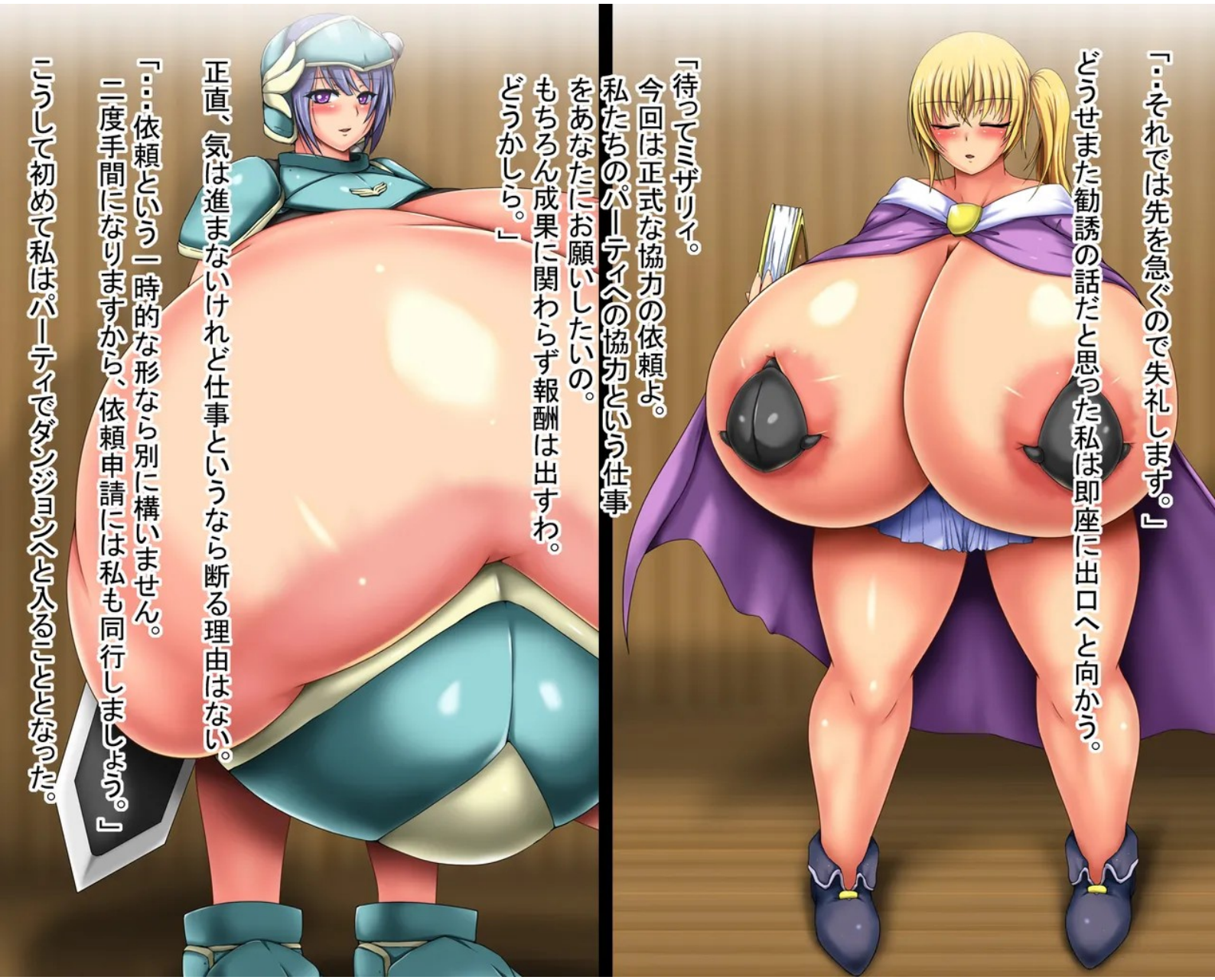
エムポ！
4

「さすがは〈フィリノア魔法学校〉で天才と呼ばれた方ですね♪
一人でこれほどの難度と数の依頼をこの短期間でやり遂げてしまうなんて！では、こちらが報酬となります！」
「そう。ありがとう。」
私は余計な言葉を返さずにギルド職員から報酬をもらって早々と立ち去る。
正直、天才と言われ続けても実感がない。
だから否定しようとした時期もあったが時間を使った挙句に余計周りから反感を買うことになったので今では素直を礼を言って流すようにしている。
それでも絡んでくる奴はしつこく絡んでくる。

「さっすが天才様。
まさにバカと紙一重だな！
単独でダンジョン入るとか優秀な
くせにアホ過ぎるだろ。」
「……。」
「余裕ぶっこいてると痛い目見るぞ？
まぁ、あたしの知ったことじゃない
けどなぁ。てか、聞いてんのか。
今重要な話してっぞ？」
この子も飽きないものね。
初めは完全に嫌味だったけど最近
は嫌味なのか心配しているのか態
度が意味不明。
一理あるのは認めるけど私の場合
守る対象が増えるだけだから単独
の方がいいし。
パーティ加入の勧誘は断ったはずの
にこの子もそのリーダーも何故今だ
に絡んでくるのか。

「ナッシェ。心配してるなら素直にそう言えば？
今までの行動を見てきてミザリィが正統な冒険者なのは
理解しているでしょ。今じゃ勧誘にも乗り気満々なくせに。」
床に着きそうなほどの巨大な乳房を持つ戦士が間に入ってくる。
彼女がうざナッシェのリーダー「アルマ」。
・・やっぱりまだ勧誘諦めてなかったか。
アルマの言葉にナッシェが何か言い訳がましく言っているが無視する。
膨大な魔力量が原因で起きる、著しく乳房が巨大に成長する魔膨症。
魔力量が多いほどに超乳度は増すため、乳房の大きさは相手の脅威度
を知る目安ともなる。魔力放出量が激減するデメリットがあるが、あ
まりに大き過ぎて普段は縮小化の魔法を使っている者もいるのであく
までも最低目安だ。かくいう私もその一人。


「‥それでは先を急ぐので失礼します。」
どうせまた勧誘の話だと思った私は即座に出口へと向かう。
「待ってミザリィ。
今回は正式な協力の依頼よ。
私たちのパーティへの協力という仕事をあなたにお願いしたいの。
もちろん成果に関わらず報酬は出すわ。
どうかしら。」
正直、気は進まないけれど仕事というなら断る理由はない。
「‥依頼という一時的な形なら別に構いません。
二度手間になりますから、依頼申請には私も同行しましょう。」
こうして初めて私はパーティでダンジョンへと入ることとなった。

ダンジョンとは危険と認定された古代人の生活施設のことである。
凄まじく強大な存在とされている古代人。
時として発見される彼らの施設・道具は現代では解析不可能である。

古代人にとっては自動で補充されるただの警備用ペット、自動で増えるただの家畜が現代人から見ると命に関わる凶悪なモンスターとなる。
だが、無限の狩場でもあるそこは素材の宝庫だ。

しかもダンジョン内モンスターは制御を受けており外へ出てくることはないため、ダンジョンを中心とした街、「ダンジョン都市」は各地に多く存在する。

一般人がダンジョンに入るには冒険者として登録する必要があり実績を積みランクを上げていけば行けるダンジョンも増えていく。
モンスターを狩り素材を集めるのが主な仕事だが古代道具を発見することができれば一攫千金も夢ではない。

基本、魔力量と強さは比例するため、上級冒険者の女性割合を多く、冒険者だけに限らず強者と呼ばれる者は全て女性だ。
そんな女性冒険者の中には金銭のためだけでなく性欲発散も目的とする者がいる。「モンチン堕ち」と言われる彼女らは女性強者特有の豊満過ぎる体を持て余し超巨根魅せつけてくるモンスターを二つの意味でヤりまくる。

ダンジョンを構築した古代人も恐らくは女性。
目の保養か、性欲処理か、どうせだから巨根雄にしたのか。どれにしろダンジョンには強制勃起状態の巨根モンスターが数多くいる事実は変わらない。

「超乳なこの体ごと持ち上がるオーガチンポお素敵ぃ♪
あああああんんっ！　でもお足らない！足らないのぉ！
あああああぁぁっ！もっともっとお滾らせてぇえっ！」
ペニスに串刺しになったまま自身の超乳を揺らして
強引に動くモンチン堕ち魔法使い。
「あああああああんんっっ！
ひぃあああああんっ！」
「グゥギィゴオオオッツ！」
「そうそう。射禁状態でイキまくりなさ～～～い♪
頑張ったご褒美にはハイパーオーガチンポにしてあげるからぁ。」

「あああああああっっ！イックゥウ～～～～ッッ！
んんんっっ！ダメェ～～。こんな軽い絶頂じゃ足らないのぉっ！
ほらぁ早くぅ。イキ過ぎて干渉抵抗ゼロになってハイパーチンポに
なっちゃってぇ！　あああああああああんんっっ！」
射禁ベルトで締め上げられたペニスは精液を全く出せないまま
何度も達せられ、オーガは苦悶しながらもがく。
「そろそろイけそうねぇ。
それじゃいっちゃうわよぉ～～。
《部位肥大》っ♪」

ボ
ゴリオム
「あああああぁあああぁあああっっ♪
超デカチンポきひゃあぁあああぁっ♪」

他者へ直接変化を与える魔法を使用する場合、干渉抵抗が発生する。
回復魔法は自分自身にかけるよりも効果は半分に減衰。強化魔法は
四割の効果が出ればまだ良い方。変化魔法にいたっては不発する。
だが、例外は存在する。現在判明しているのは二つ。
相手が瀕死の場合と連続で絶頂させまくった場合。
射禁状態で絶頂させまくってからの強制超巨根化は
まさにモンチン堕ちの定番プレイ。坂道を転がるよう
にモンスターたちはどんどん意識と抵抗を削り取られ
ヤ(犯)られながらヤ(殺)られていく。

「溜め込み大量精液いきひゃあああああああぁっ！
あああああああああんんっっ！イックゥウッ・・・！
あああんんっ！イクイクイクッ・・・！
中出しいいのおっ！もっともっとおおっ！」
ゴボォ
ゴボォ
「それじゃトドメの〈コンバート〉！
生命力を精力へ変換♪
文字通り死ぬまで出し尽くすといいわ♪」

「あああああああぁぁぁっ♪
超デカチンからの超継続超大量射精っ！
しゅてきぃぃひぃっ！
イクイクイクイクイクイクイクイクイクウッ！
あああんんっっ！イクイクイクイクイクイクイクッ！」
ビクビク
ビクビク
ドボドボ

オーガの生命力を精力に変換し続ける。
死ぬまで持続する膨大精力が連続大量射精を実現する。絶頂しまくっていたペニスからの放出は自力では止めようがない。
射精は二分ほど続き、ついにオーガは事切れる。
モンチン堕ちの魔法使いは支えを失い精液溜まりに落ち何度か痙攣し余韻を楽しむがすぐさま欲求不満な表情を浮かべる。
「あああああんっ。もお終わっちゃったぁ・・。」
「言っとくけど次は私の番だからね！」

アルマ達のパーティは純粋な狩りを目的として活動している。
だが、突然回復と遠距離魔法担当がヤり目的でパーティから離脱。
その穴埋めのために私を勧誘してきたようだ。

「それなりに一緒にやってきたってのにチンポ目当てに急に他のパーティに移籍しやがって。これだからおっぱいのドデカイ奴は油断ならねぇな。」

胸が大きいほどモンチン堕ちになりやすいのは通説。
ナッシェの今までの私への行動はそのせいのようだ。
魔法学校出の天才という噂だけでも相当な大きさと判断するには充分だろう。

私は性欲が薄めなのでナッシェの態度が軟化していったらしい。へそ曲がりなので腕うんぬんの前にとにかく面倒くさい。

剣士「ナッシェ」

冒険者クラスC

通常時バスト縮小なし
最大バストサイズ　223cm

「さ、先ほどはありがとうございましたぁ。
足を引っ張らないようにが、頑張りますぅ！」

先行する役割なのにドジを踏んですでに何度か助け船を出している。正直呆れてきていたが、危険察知とマッピング能力はかなり優秀なので、しっかりとサポートすれば結果いい働きを見せてくることに・・。何か複雑な気分。

盗賊「シャロン」

冒険者クラスC

通常時バスト縮小なし
最大バストサイズ　148cm

「さすがはミザリィね。
二人の穴を埋めてなお余りあるわ。
おかげで今回は普段より深い層まで行けそうね。」
妙に馴れ馴れしいのが気にかかるが見た通りに魔力も高く優秀な戦士。
縮小の魔法は苦手らしく調整がきかずペッタンコにしか縮小できないため、常時フルサイズなのはちょっと邪魔。
自己回復、身体強化くらいしかまとも扱えないとのことだがこの魔力量なら充分に有効な手札となりえるはずだ。
戦士 「アルマ」
冒険者クラスB
通常時バスト縮小なし
最大バストサイズ 574cm

「ちっ。どいつもこいつもチンポおったてやがって目障りにもほどがあるっての！」
「た、確かに落ち着かないというか。攻撃の瞬間、こちらに向けられるとつい軌道を逸らしてしまいますぅ。」
二人はなぜか不快不満を漏らす。むしろ歓迎してもいいことと思うのだけれど。
「こんな急所丸出し。狙いやすさ抜群かと。この程度なら急所一撃で完了です。」

「ピギャアアアオオオオオツツツ！」
「急所への強烈な一撃。しかも防御力の低い内側から。確かに理に適ってはいるわね‥。」
「‥急所狙いは私も考えたことあったけどな。どーにも実践する気にはなれなかったんだよ‥。ヤベェ。あいつ、一切の躊躇なし！」
「ひいい。
み、見てるだけでも痛いですぅ。
しかもそのまま破裂コースっぽいですぅっっ？」

「自分から馬鹿丸出しで急所丸出しにしてるくせに何悶絶してるのかしら。しかも急所攻撃されているのにイってるとか。とんだ変態。ほらぁ、その変態をどうにかしないと自分の体液で爆砕しちゃうわよ？」
モンスターが出す体液も操り、急所の生殖器を内部から膨れ上がらせていく。体液を利用するため物質生成の魔力を省けて効率もいい。

ゴ
パ
『表面上はクールだけど…』
『揺ぎ無く確実に本性は…』
『超ドSですぅ～～～！』

・・おっといけない。
バカなモンスターが自爆するのを見てるとついつい笑えてくるんですよね。

さすがにこれははしたないのは分かる。
次からは気をつけるとしましょう。

「安心して下さい。
生殖器が素材になるモンスターにはしませんので。」

このあとも探索は順調に進み、順調に爆砕していく。
笑ってしまったのは最初だけだったのに爆砕するたびに二人が遠い目をしていたのは謎。急所を狙うのは当然の戦略だと思うのだが・・。

そして、依頼に似合うだけの成果を出し初のパーティダンジョン探索を終えた。

多少のおせっかいと実利、アルマたちはそれ以降も何度か同行を依頼してきた。成果が分からないのに助っ人依頼を出すのはそれだけでマイナスになりかねない。それは充分な信用の担保。

仕事はきっちりとこなす。

当然のことを繰り返していたら次第に他のパーティからも助っ人依頼がくるようになった。基本はソロで、依頼されたときのみパーティというのが私のスタイルとなっていった。

相変わらずソロの方が性に合っているが、私が完全サポートすることで他者の尖った能力を活かして大きな成果を出させるのも悪くはないとも思っている。

私は普通にやってるだけなのだが、それらを普通にやるのは普通じゃないらしい。でも、私はただ可能だからやる。それだけだ。

ある時いくつかのパーティが帰還していないという話を耳にする。
だが、心配も動揺も広がっていない。
正直よくある話なのだ。
モンチン堕ちで構成されたパーティがたがが外れてダンジョン内で数日ヤりまくってしまいしばらく帰還しないことは。
捜索依頼を受けて向かった先には搾りカスのようになった多数のモンスターと精液の海。そして、満足そうなモンチン堕ち達が時間の経過に驚く。それが定番のオチになるくらいによくある話。

「あああああんんっ！
もっとぉもっと頑張ってぇ・・！
これじゃ全然足らないよぉっ・・！
魔力残量気にせず強化できたらいいのにぃ。」
「モンスターのくせにこの程度
でへばってるんじゃないわよ！
おらぁ！ほらぁっ！
しっかり硬くしなさいっ！」
ゴボッ
「やっぱ物足らないぃっ・・！
ってことでコンバートおおおお
おおおおっ！
大量精液来た来たぁあああ
あああああんっ♪」

モンチン堕ちたちが皆ぶつかる問題。

モンスターを魔改造しまくった状態で存分に楽しみたいところだが毎度そんな大盤振る舞いしていたら魔力がすぐに枯渇してしまう。
マナポーションは高価なので気軽には使えない。

そういう事情から安全軽視な無茶なヤり方をする者も出てくる。

闘(ヤ)りながら犯(ヤ)って殺(ヤ)る。
相手のセイシを考慮する必要がないモンスター相手だからこその加減無用のバトルセックス。

「あああああんっ！
谷間に熱いのが溢れてますわぁっ♪」
動きの枷となる超乳は圧倒的物量攻撃にもなる。
「ぶちちかまし」。強化した下半身で跳躍しおっぱいごとぶち当たる。
無様にも急所丸出しモンスターは衝撃で射精する。
射精に意識を取られモンスターはそのままあっけなく超乳に押し倒される。

「チンポも膝もいい位置ですわね！
あぁぁんっ♪　太ぉおおぉおいぃっ♪」
彼女は腰を下ろす。
過剰強化と巨大なものを咥え込み続けた拡張成果で
体外へ飛び出るほど異様なまでに肥大している子宮が
折り曲げた両膝とペニスを同時に呑み込んでいく。
グ
ポ

自在とは程遠いがある程度は子宮を操作できる彼女は
モンスターの下半身を子宮で吸い上げながら、子宮は
体内へと戻していく。
モンスターの足のつけ根辺りまで呑み込む。
モンスターごと戻される子宮で彼女のお腹はだんだん
と膨らんでいく。
「あああああんんっ！
やはりハメるならこれくらい大きくなくてはっ！」
ペニスの巨大化をしてもどうせ物足りないので省エネを兼ねた「ペニス
を下半身丸ごと挿入」。無論リスクも高いがそれすらも刺激。

「あああああぁあああぁああんっ！
そう！そうですわぁっ！
抵抗しないとおこのまま下半身丸呑みですのよ。
ほらほらぁほらぁあああああああああんっ！
もっと暴れてくださいませぇえええぇえっ！
あああああぁああひぃいあああああっ！
気持ひいいいいひぃ～～～っ♪」
ぶちちかましの眩みから目覚めたモンスターは咄嗟の事態に
下半身を動かそうとするが、それは彼女にとってのご褒美な
だけに終わっていく。
しばらくすると混乱がおさまってきたのかモンスターは自由な
上半身での攻撃に切り替えようとする。
「ああんっ！残念時間切れですわ・・ねっっ！！」

ニヘラ
ホォ

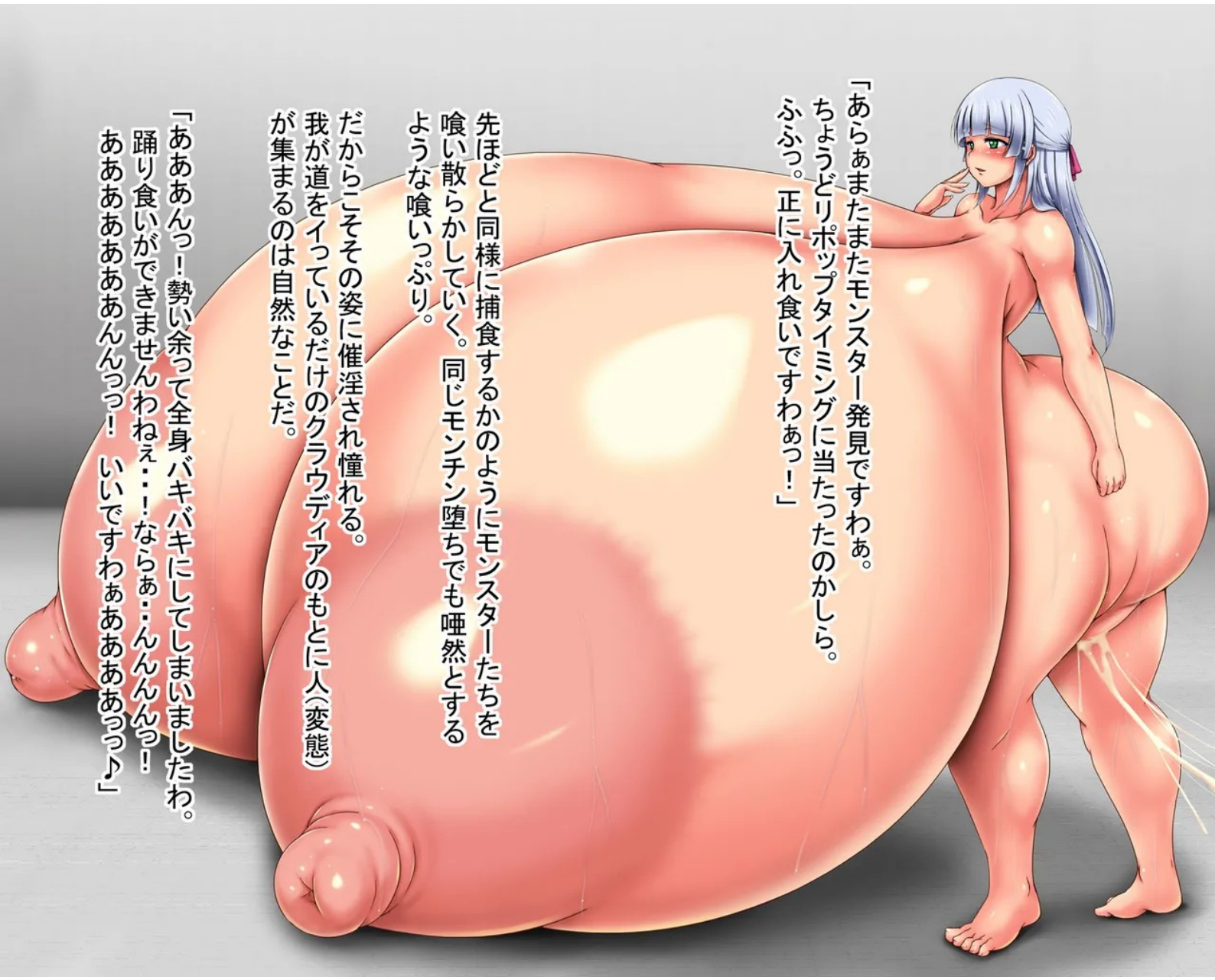
モンスターの反撃を許すはずもなく彼女は子宮を一気に体内に引き戻す。モンスターは腰まで呑み込まれ、腹部を凶悪に締め付けられて悶絶する。
その隙にしっかりと両足でモンスターの両手を封じる。
「あああああんっ！　子宮熱いぃんっっ！
こんな状態でもう3回目の射精ですわぁ。
モンスターってドMしかいませんの？
けれど悦んでいる場合ではありませんのよ。
しっかり抵抗しないと死にますわよ。
ほらほらほらほ～～らぁっ！」

拘束から逃れようと暴れるモンスター。
だが強靭な子宮は揺るがない。
むしろ刺激を受けてさらに締まり出す。
「あああああぁあああぁああっ！
イクイクイクイクッッ・・！
イックゥ～～～～ッッ！」
たった一度の絶頂では足りるはずもない彼女の動きは
これを機に貪欲に激しく容赦のないものになっていく。

縦横に腰をくねらせて快感を引き出す。
モンスターの体がまるで生きたディルドー扱いで
時折その体から嫌な音が鳴っていく。
「あああああああんんっっ！
気持ひぃいいいっんんんっ！
あああああんっ！あああぁぁあっ！
ほらぁもっとお暴れてぇっ！
あああああああぁぁあっ！」
「おほぉっ！また精液来まひたぁ♪
あああああぁぁあああぁっ！
イクイクイクイクゥッ・・！」

「…あらぁ？
動きが完全に止まりましたわね。」
大量射精させる処置はしていないのにお腹が数段
膨れ上がるほどに中出し精液が溜まっている。
十数分のハメ技をくらい続けたモンスターは抜け出す
こともできず死ぬほど射精し事切れた。
ドプゥ
フーッ
フーッ

格闘家 「クラウディア」
冒険者クラスA
通常時バスト 300cm
探索時バストサイズ 650cm
最大バストサイズ 未確認(成長中により要再確認)
探索(強化肥大)時ヒップサイズ 178cm
元は良家のお嬢様だったが魔膨症による欲求不満が年々ひどくなり、ついに冒険者となってモンスター相手に性欲発散し続ける日々を送る。
本人はただヤりまくっていただけだが、いまだ成長するおっぱいが物語る天性の超大な魔力量と幼い頃に習得した武術で冒険者としてもモンチン堕ちとしても有名に。
現在、ヤり手のヤリマンギルドのリーダーとして活躍中。

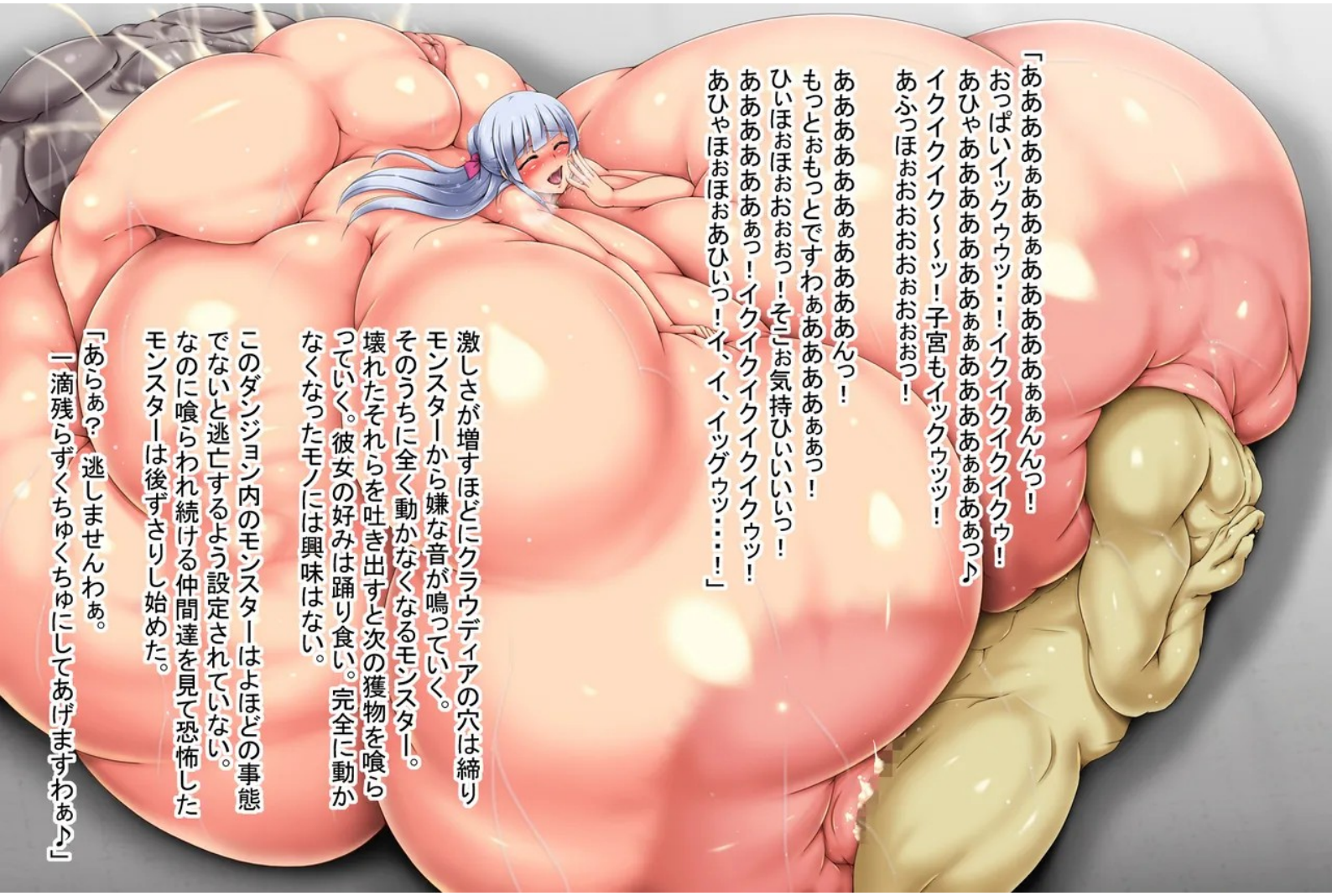

「あらぁまたまたモンスター発見ですわぁ。
ちょうどリポップタイミングに当たったのかしら。
ふふっ。正に入れ食いですわぁっ！」
先ほどと同様に捕食するかのようにモンスターたちを
喰い散らかしていく。同じモンチン堕ちでも唖然とする
ような喰いっぷり。
だからこそその姿に催淫され憧れる。
我が道をイっているだけのクラウディアのもとに人(変態)
が集まるのは自然なことだ。
「あああんっ！勢い余って全身バキバキにしてしまいましたわ。
踊り食いができませんわねぇ・・！ならぁ・・んんんっ！
あああああああんんっ！　いいですわぁあああああっ♪」

性処理道具として使い倒されていくモンスターたち。
モンスターと呼ばれている存在からすればクラウディアたちの方がよほどモンスターだろう。
何かから逃れるようにやってきて集ってしまった彼らが行きついた先もまた死地であった。
「‥いつももですが、今日は特に凄まじですね‥！
やっぱり私たちだけ別行動で正解ね。
新人にはいきなり生クラウディアは刺激が強いもの。
影響されて無茶するようになっては困るからね。
うわぁ。　モンスター丸ごとイったぁ‥！」

格闘家 「エレノーラ」
冒険者クラスB
通常時バスト 400cm
最大バストサイズ 673cm
探索(強化肥大+巨大化)時ヒップサイズ 420cm
クラウディアとは初期からの冒険仲間。
アナル好きなため探索時はよく超尻化している。
格が違う愛すべき超ド変態のクラウディアの手綱
役を自負しているが本人も大概にド変態。

ブビュッ♡
エレノーラはクラウディアのバトルセックスをオカズに
自身のプレイも激しくしていく。
きっちりと手足を不能して転がしていたモンスターの
ペニスを次から次へと超尻で咥え上げては尻の質量と
弾力で搾り尽くし、また転がしていく。
そのスパンがどんどん早くなっていく。
「あああんんっ！
お尻でイクイクイクイクゥウッ・・！
あああああぁぁあああんっっ！」
「もおクラウディアってばヤり過ぎぃ・・！
あああああぁぁあああんっ！
ホント新人には見せられないわね・・！」

ヤればヤるほど更なる刺激が欲しくなっていくド変態は
止まらない。加減の無いぶちかましで戦闘不能にした
モンスターの頭とペニスを乳首で咥え込み、緩やかな窒息
でもがくのをバイブとしてニプルファックを楽しむ。
クラウディアの腹は異様なまでに膨れ上がっている。
それも当然。モンスター一匹を子宮に丸呑みしたまま
さらに下半身ごとペニスを咥えこんでいっている。
「あああぁあぁぁんんっ！
大きいの来ますのぉほぉおぉっ♪
あぁあぁぁあああっっあああぁっ！」
ボォォ
グポォ


「あああぁぁあああああぁぁんんっ！
おっぱいイックゥウッ・・！イクイクイクイクゥ！
あひゃあああああぁぁあああああぁぁあああっ♪
イクイクイク～～ッ！子宮もイックゥウッ！
あふっほぉおおおおぉおおおっ！
あああああぁぁあああんっ！
もっとぉもっとですわぁあああぁぁっ！
ひぃほぉほぉおおおっ！そこぉお気持ひいいいぃっ！
あああああぁぁっ！イクイクイクイクイクゥッ！
あひゃほぉほぉあひぃっ！イ、イ、イッグゥウッ・・・！」
激しさが増すほどにクラウディアの穴は締り
モンスターから嫌な音が鳴っていく。
そのうちに全く動かなくなるモンスター。
壊れたそれらを吐き出すと次の獲物を喰らっていく。彼女の好みは踊り食い。完全に動かなくなったモノには興味はない。
このダンジョン内のモンスターはよほどの事態でないと逃亡するよう設定されていない。
なのに喰らわれ続ける仲間達を見て恐怖したモンスターは後ずさりし始めた。
「あらぁ？　逃しませんわぁ。
一滴残らずくちゅくちゅにしてあげますわぁ♪」

クラウディアがモンスターたちをとりあえず戦闘不能にしておこうとした時だった。
緊急用の音玉がダンジョン内で反響した。

その音玉は彼女のパーティのもの。
少し離れたところで別行動していたメンバーからの緊急の信号だった。ただヤりたいようにしてきたクラウディアであったが自分を慕って集まった者たちを見捨ててヤり続けるほど淫乱外道ではなかった。

咥え込んでいたものを一気に吐き噴き出す。

モンチン堕ちが一番危険になるのは性交中だが、調子に乗ってヤり過ぎて性交後にまともに動けなくなりそこを襲われて全滅しかけるのもよくあること。

だが、クラウディアは並の変態ではない。
あれだけの激しい性交の直後でも平然と動ける。
高魔力保持者ゆえの頑強さと絶倫が為せる技。

彼女と比べると霞むがエレノーラも充分な変態。
まだまだヤれる余力を残している。

「ええ！　当然！
急ぎましょう・・！」

エレノーラは即答する。
クラウディアに中てられてちょっとトバし過ぎて下半身がひくついているが問題はない。

うかつに魔力放出を落とすわけにはいかない。
二人は超乳を揺らしながら現場へと急行する。

二人が駆けつけたさきでは巨体がうねっていた。
このダンジョンには出現しないはずの女型の半人半蛇のモンスター。
人間同様、モンスターも同類ならば女型の方が強い。
今回はその超大な乳房を見れば一目瞭然であった。

モンスターは普通に外界にも存在する。
ダンジョン内に紛れ込んだ外来種が無限に湧くモンスターを餌にして強力に特殊に成長・進化する。それらはボスモンスターと呼ばれ、ランダム遭遇する。強さはピンキリで厄介この上ないが希少な素材になることもあり遭遇したのなら闘ってみる価値はある。

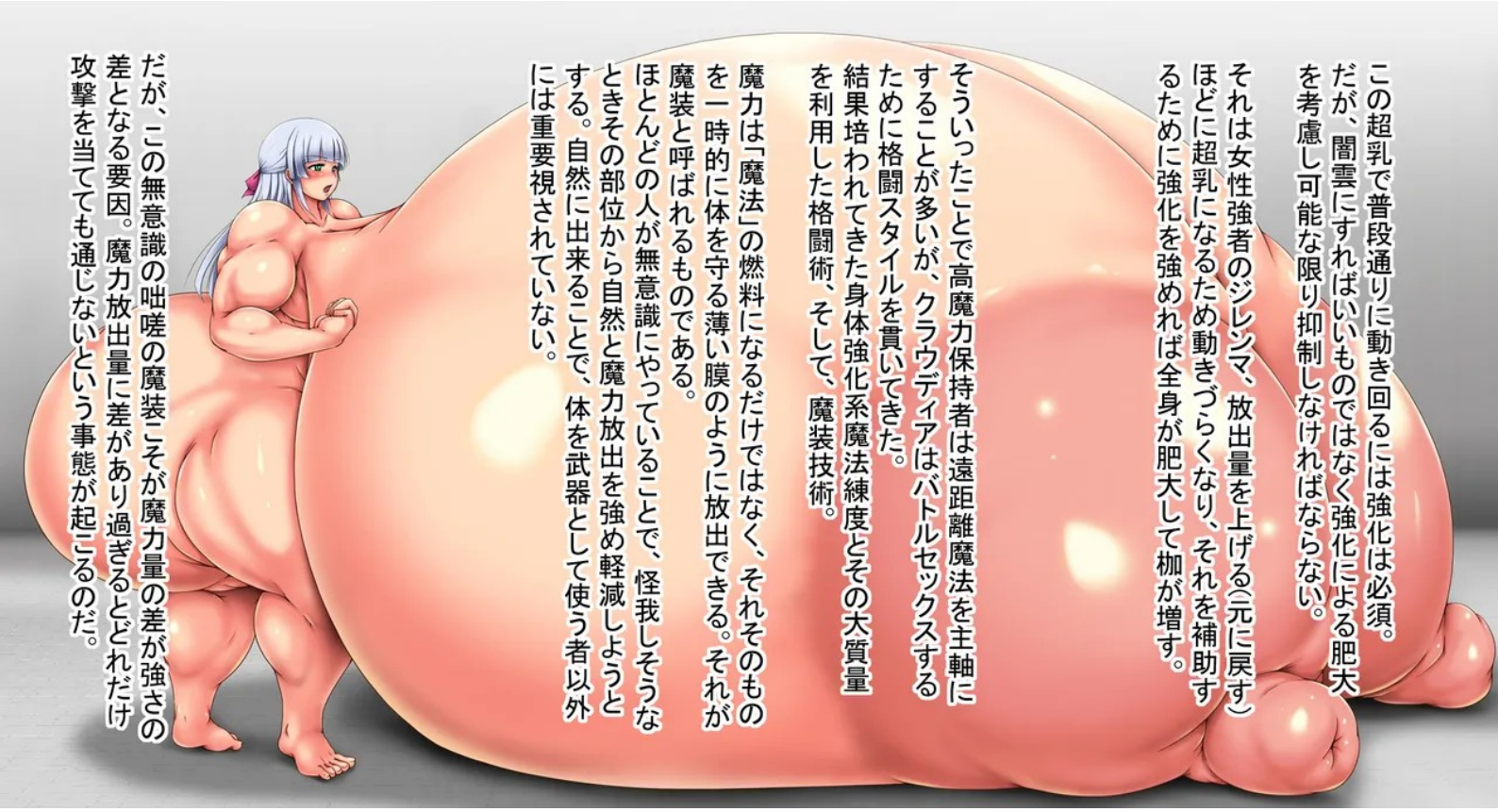
だが、本当に強さはピンキリで、中には深層で長い間力を蓄え凶悪な強さとなったモノもいる。極めて危険と判断されればそれらが外へと出る前に国が保有する戦力が討伐に出てくる場合もあり、ボスに戦いを挑むならば見極めが重要となる。

「マダマダ　空腹　オマエラモ　丸呑ミ♪」
半人半獣系には言語を使うモノもいる。
丸呑みという単語にクラウディアはおっぱい形に変形している
蛇の胴体に気づく。パーティメンバーはこれに丸呑みにされた
に違いない。
だが、丸呑み。そして、まだおっぱいは形を保っている。
つまり、消化は全然進んでおらず、外傷軽微の可能性大。
ここでこれの半人を消し飛ばせば救えるかもしれない。

ボン
「オールリリース！」

クラウディアのおっぱいが制限を
解かれ本来のサイズを取り戻す。
13m級超乳への圧倒的変化に誰もが視線を奪われるだろう。
驚異度が超乳度に比例する世界だからこそ自然と注視して
しまう。

「全身強化！」



この超乳で普段通りに動き回るには強化は必須。
だが、闇雲にすればいいものではなく強化による肥大を考慮し可能な限り抑制しなければならない。

それは女性強者のジレンマ、放出量を上げる(元に戻す)ほどに超乳になるため動きづらくなり、それを補助するために強化を強めれば全身が肥大して枷が増す。

そういったことで高魔力保持者は遠距離魔法を主軸にすることが多いが、クラウディアはバトルセックスするために格闘スタイルを貫いてきた。
結果培われてきた身体強化系魔法練度とその大質量を利用した格闘術、そして、魔装技術。

魔力は「魔法」の燃料になるだけではなく、それそのものを一時的に体を守る薄い膜のように放出できる。それが魔装と呼ばれるものである。
ほとんどの人が無意識にやっていることで、怪我しそうなときその部位から自然と魔力放出を強め軽減しようとする。自然に出来ることで、体を武器として使う者以外には重要視されていない。

だが、この無意識の咄嗟の魔装こそが魔力量の差が強さの差となる要因。魔力放出量に差があり過ぎるとどれだけ攻撃を当てても通じないという事態が起こるのだ。

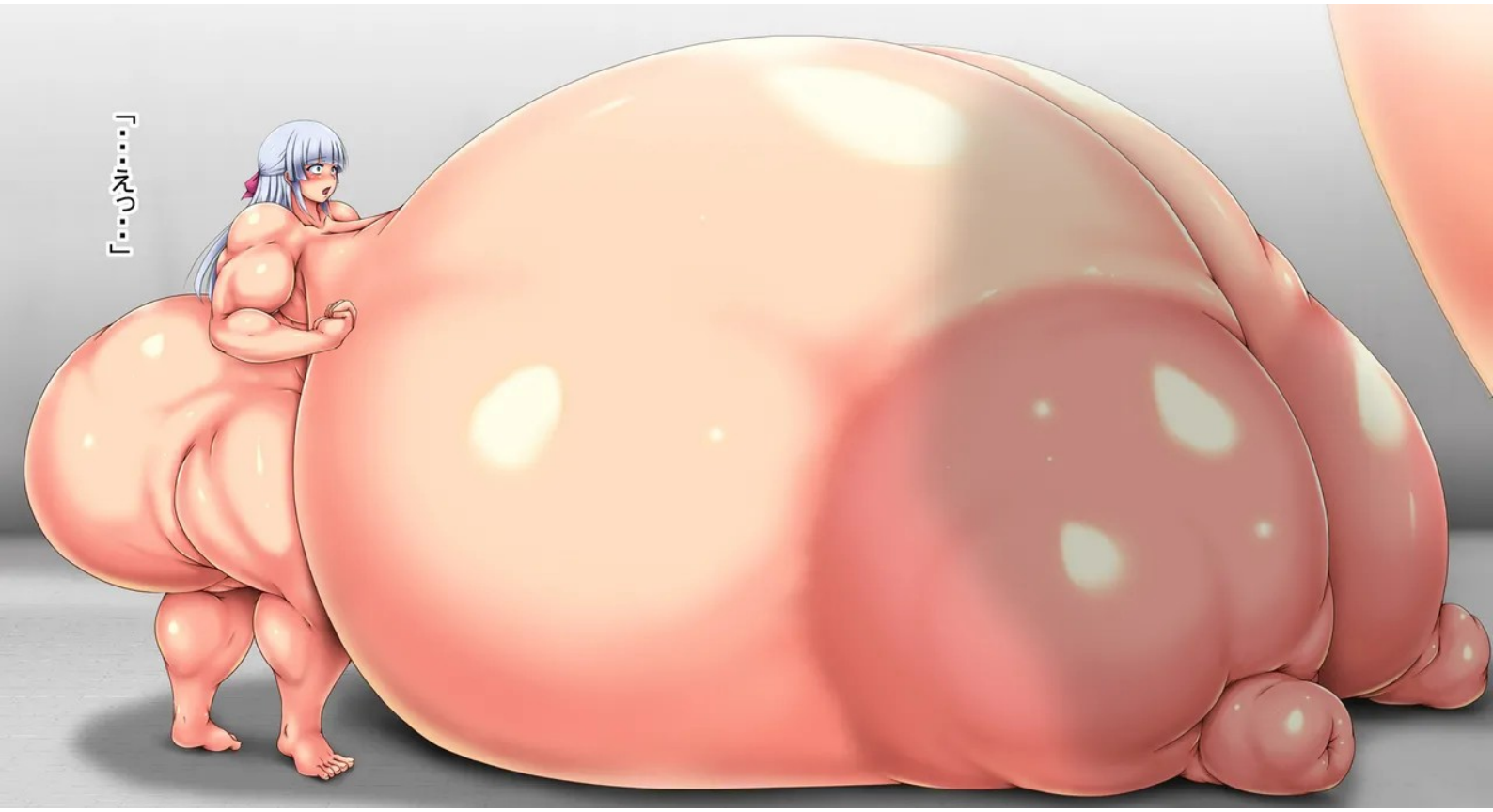
クラウディアへの警戒を逆手にエレノーラが死角へと回り込む。
最大バストを解放しての最大出力の下半身強化、からのヒップアタック。
悪ふざけでも何でもなく彼女の中で最大攻撃なのがヒップアタック。モンスターとの幾度とない性交で培われた経験と技術が彼女のヒップアタックを必殺のものへと昇華させていた。

ボ
ヒップ

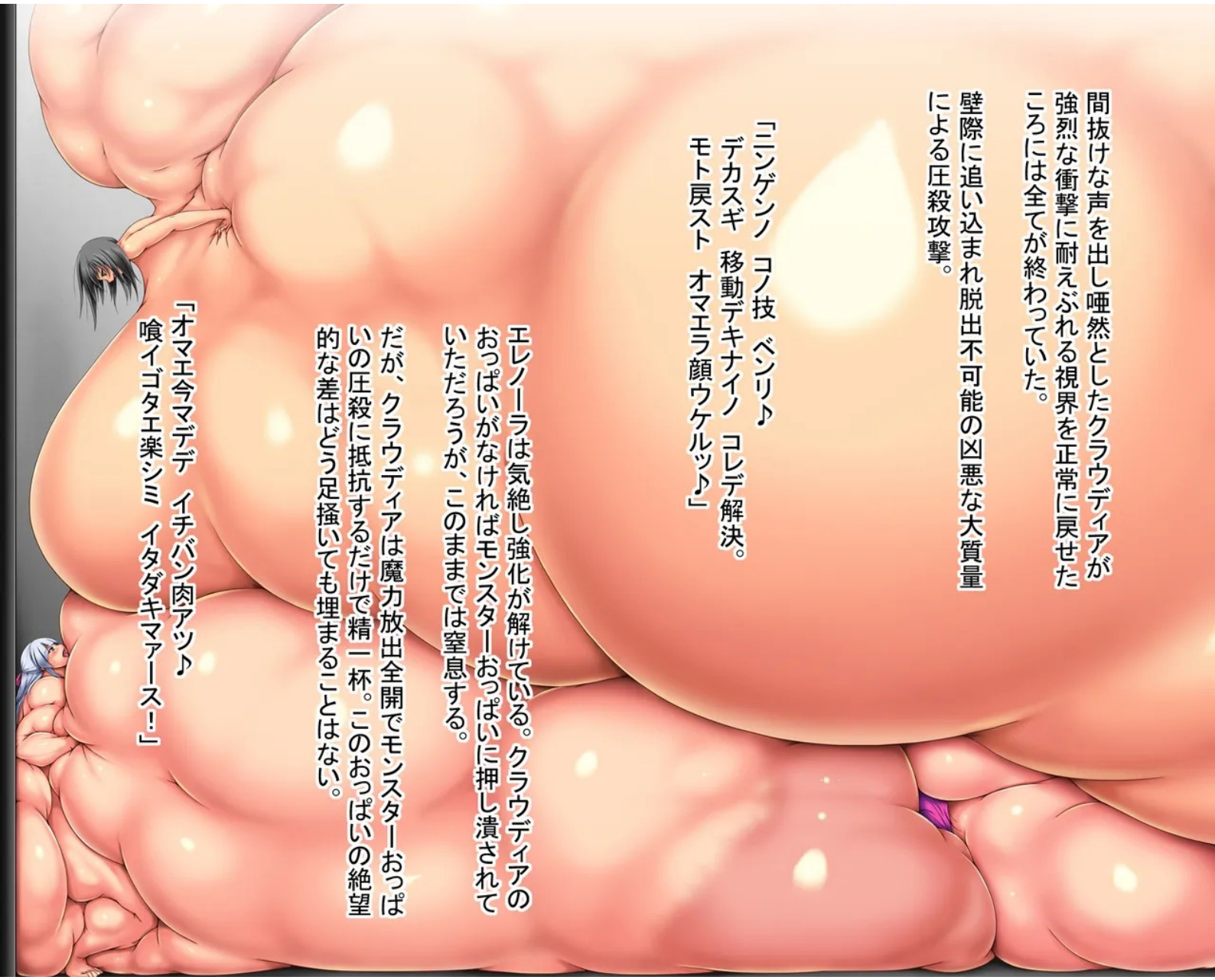
インパクトの瞬間、最大出力で発動される「巨大化」
の魔法。使い込まれた魔法と尻があってこそ可能と
なった刹那の超膨張。
回避はほぼ不可能。
魔装も強く発現した10mの超尻がおっぱいの差を
埋めるようにモンスターに炸裂する。

だが、それは突如現れた何かに阻まれる。
エレノーラの超尻を難なく弾く質量と強靭さを
持った何かはさらに脈動する。

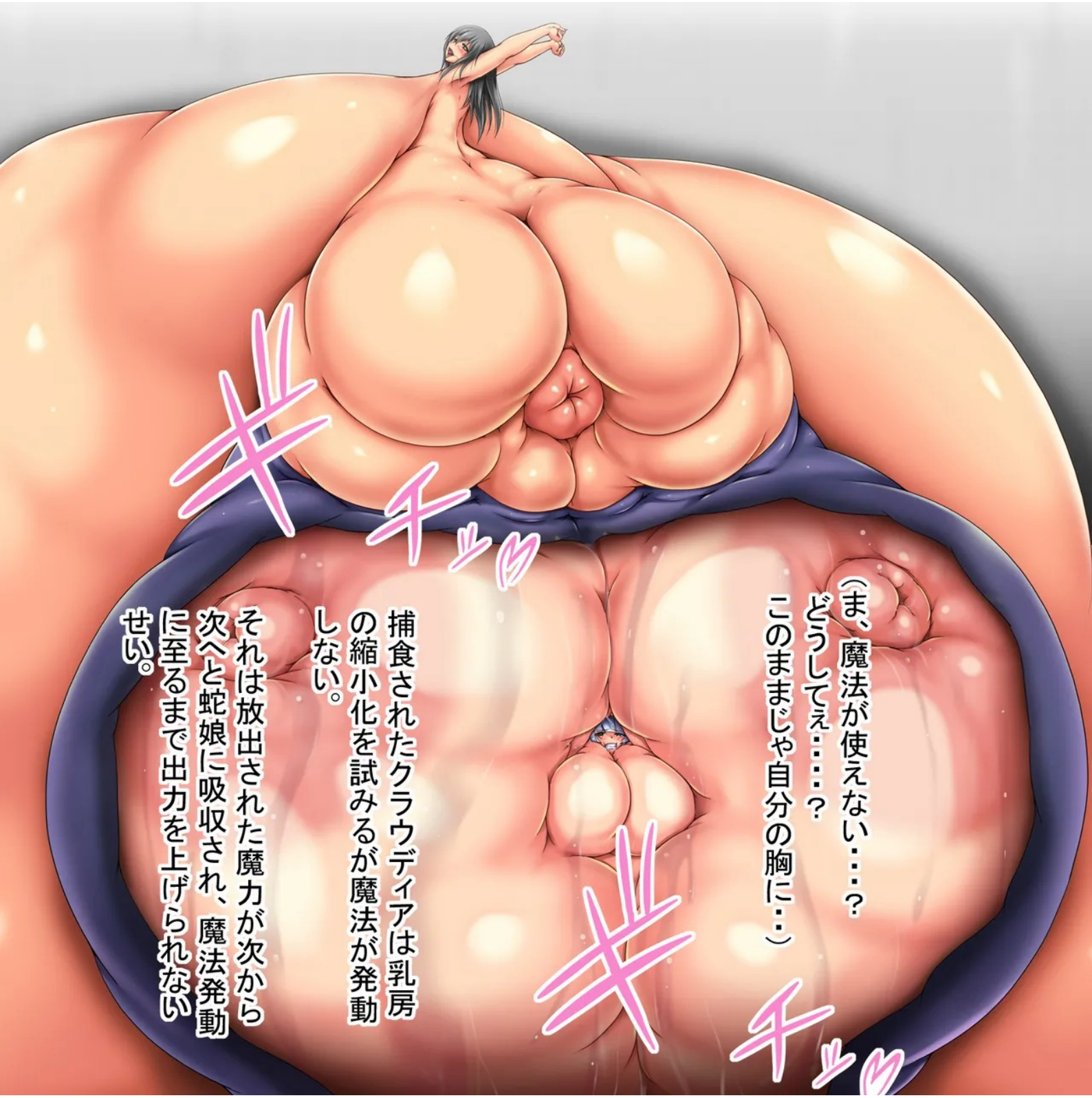
「オールウリィーリィースゥーー！」
エレノーラはその絶望的な言葉を聞く。
その瞬間、彼女は地面に押し落とされ
そのまま大質量に巻き込まれ引きずられていく。


「…えっ…」

ズッウ


間抜けな声を出し唖然としたクラウディアが
強烈な衝撃に耐えぶれる視界を正常に戻せた
ころには全てが終わっていた。
壁際に追い込まれ脱出不可能の凶悪な大質量
による圧殺攻撃。
「ニンゲンノ　コノ技　ベンリ♪
デカスギ　移動デキナイノ　コレデ解決。
モト戻スト　オマエラ顔ウケルッ♪」
エレノーラは気絶し強化が解けている。クラウディアの
おっぱいがなければモンスターおっぱいに押し潰されて
いただろうが、このままでは窒息する。
だが、クラウディアは魔力放出全開でモンスターおっぱ
いの圧殺に抵抗するだけで精一杯。このおっぱいの絶望
的な差はどう足掻いても埋まることはない。
「オマエ今マデデ　イチバン肉アツ♪
喰イゴタエ楽シミ　イタダキマァース！」

「アアァンッ！　ンンンッッ！
コノ肉アツ　イイ具合　引ッカカッテ
旨キモチイイィ♪　アヒャホォッ♪」
「デカパイ人間モ　悪クナイ♪
勝手ニヤッテクルカラ　ドンドン喰エル！
アアァンンッ！　旨キモォ！」


（ま、魔法が使えない…？
どうしてぇ…？
このままじゃ自分の胸に…）
捕食されたクラウディアは乳房の縮小化を試みるが魔法が発動しない。
それは放出された魔力が次から次へと蛇娘に吸収され、魔法発動に至るまで出力を上げられないせい。
キチッ
キチッ

クラウディアは諦めない。
だが、抵抗するほどに蛇娘を
無駄に刺激していく。
「アアアアンンッッ・・！
イックウウーーーッ！」
結果、ついに絶頂まで導いてしまい
膣食道が一気に締まる。
ズ
チュ

「ハテ？　シゲキゲキ減？
オモワズ　ハメコロシチャッタ。
残念ムネン。」
ダンジョンにて強大な力を得てきたそれはおっぱいが
大きくなり過ぎて深層にて潜んでいるだけだった。
だが、そこに冒険者が辿り着いてしまった。
おっぱい縮小化の手段を得たそれは気の向くままに
昇っていき、超乳人間の味を知る。
厄災級モンスター「ラミアス」。
その暴虐は始まったばかりであった。

「べ、別によ。心配とかじゃねーけど。
うちらより快感とった奴らだし。
マジ心配とかじゃねーけどよ。」
「あーー。そういう前置きはいいので。
(いつも面倒くさいな、お前)
つまるところ元パーティメンバーの
安否を探索ついでに確認したいんで
すね。いつもの延長みたいなもので
すから構いませんよ。」
「そ、そうか。
・・って、別にマジで心配とかじゃないからな!
あくまでついで。ついでだからな!
だからお前も無理にきばらなくていいからな。」
「・・しつこいです。」
そして、私はいつものようにダンジョン
へと向かっていった・・。